

平成24年度

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 25 年 5 月11 日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2795000104		
法人名	株式会社プラティア		
事業所名	グループホームプラティアひょうたん山		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪府東大阪市新池島町1-1-5		
自己評価作成日	平成25年3月31日	評価結果市町村受理日	平成25年6月28日

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	http://www.kaigokensaku.jp/27/index.php
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社H.R.コーポレーション
所在地	兵庫県西宮市松風町2-5-107
訪問調査日	平成25年3月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>運営方針である①ご入居者様が主人公 ②尊厳を保つ ③いきいきとした生活 ④認知症の進行を防止 ⑤地域社会と共に を柱としたケアに重点を置き、柔軟かつ繊細な対応に努めている。職員は入浴などのケアに関しては利用者が希望される時に対応できるように心がけ、認知症や接遇などの勉強会を実施し尊厳を持って接している。また近隣の店舗、ご近所の畑を活用させていただき、閉塞感の無い生活に役立っている。地域との交流の取り組みを重視し、自治会行事への参加、他のホームにも行っている。人員は人員基準以上の人数で個別ケアに対応できる体制を取っており、利用者様中心の生活環境を提供できるように利用者様本位のケアを実践しており、他の事業所よりも外出頻度を多くとり入れ入居者様の意向を踏まえて実行している。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>川沿いの閑静な住宅地に位置し、春は館内から桜並木を楽しめる立地にある。館内は木調の明るく落ち着いた雰囲気、清潔な環境づくりに力を入れ、ゆったりと快適に暮らせるように努めている。利用者一人ひとりに対して傾聴に努め、思いや意向を重視した利用者本位のケアの実践に取り組んでいる。散歩・買い物など日常的な外出、季節ごとの外出や遠出などに個別に対応し、外出の機会を確保している。食事も3食手作りで、家庭的な食事風景を大切にしている。職員は定期的な研修会や各種会議などで、自己研鑽の機会が確保されている。近隣の協力医療機関と密に連携が取れており、健康管理や緊急時対応など利用者・家族に安心感を与えている。介護計画の実施状況のモニタリングが日々行なわれ、現状に即した介護計画に基づいたケアが実践されている。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>詰所に基本理念を掲示し、常に意識する事を心がけ、出勤時も確認している。また全体会議でも唱和している。</p>	<p>「法人の運営理念」を基に「プラティアグループホーム運営方針」を掲げ、その中に「地域社会と共に」という地域密着型サービスとしての意義が盛り込まれている。理念を事務室に掲示し常に目に触れ確認すると共に、全体会議で唱和し、職員への浸透を図っている。例えば、利用者一人ひとりに対して傾聴に努め尊厳を重視した対応に努めるなど、ケアの実践の中で理念の共有と実践に取り組んでいる。</p>	
2	2	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>新池島町自治会の行事に参加させてもらっている。(春祭り、夏祭り、秋祭りなど)</p>	<p>運営推進会議で自治会長から地域で開催される行事の情報提供を受け、利用者の状態に合わせて参加し交流が持てるように支援している。3カ月に1回程度地域で開催される100円喫茶への参加を継続しており、地域の方と顔馴染みの関係が構築できている。フリーマーケットや幼稚園の行事に出向いて、交流を持つこともできるようになっている。月に1回実施される地域の清掃活動には、職員が勤務に合わせて参加し、地域での役割を担うように取り組んでいる。開設後、地域へ出向いての交流や運営推進会議への地域の方の参加により地域の理解は深まっている。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>詰所に基本理念を掲示し、常に意識する事を心がけている。また全体会議でも唱和している。</p>		

<p>4</p> <p>3</p>	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>地域の中にグループホームがあるということを念頭において、地域の方、家族様と積極的に意見交換を行っています。</p>	<p>自治会長、地域包括支援センター職員、家族代表者の参加のもと2カ月に1回開催している。会議では、「新池島ダイジェスト」の地域行事の回覧を自治会長が持参し、地域行事への参加が活発に行えるようになっている。自治会の特別会員にも加入している。地域包括支援センターからは、地域で開催される勉強会の案内などの情報提供がある。会議の内容は、地域包括支援センターから市に報告されている。</p>	
<p>5</p> <p>4</p>	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>市が主催する勉強会、連絡会には積極的に参加している。</p>	<p>法人代表者が市の地域密着型グループホーム連絡会の座長を務めていることから、行政との連携は密に取られている。地域密着型サービス連絡会が主催する勉強会・発表会にも参加している。生活保護受給者が入居されている場合は、福祉事務所との連携も強かった。法改正に関する質問など、疑問や相談があればその都度相談し協働している。</p>	

6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる</p>	<p>詰所に基本理念を掲示し、常に意識する事を心がけている。またスタッフ会議でも唱和している。</p>	<p>年間研修計画の中に盛り込み、拘束についての基本理念や拘束しないケアなど、拘束について学ぶ機会を計画的に確保している。事務所に掲示されている「プラティア禁止事項」の3項目の中に「言葉で制圧しない」という項目があり、スピーチロックについても職員間で周知を図っている。「ちょっと待ってください。」ではなく、「2分後に来ますね。」「この方の対応が終わったら来ますね。」など、具体的に説明することにより納得していただけるように対応している。階段・エレベーターを使って館内は自由に行き来することが可能である。玄関は施錠されているが、外出の希望がある時は、職員が察知し納得されるまで外出に同行するなど、行動の制限を避け自由な暮らしができるように取り組んでいる。</p>	
7		<p>○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>管理者が外部の虐待に対する研修に参加し、職員には管理者から研修しています。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>市などが主催する勉強会には参加し、制度の把握に努めている。現在、成年後見制度を利用されている方が2名いる。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>十分な説明時間を取り、重要事項説明書、利用契約書で理解した上で入所していただいている。</p>		

<p>10 6</p>	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>普段より利用者様の行動、発言・様子からニーズの把握に努めている。家族様には面会時や電話やおお手紙、機関紙「プラティア通信」で定期的に報告している</p>	<p>家族の面会時、管理者が「話にくいこともあるかもしれませんが、ぜひ聞かせてほしい」と意見や要望が言いやすい声かけに配慮し、必ず話す時間を設けている。プラティア通信・ブログ・2カ月に1回の個別の「おたより」を通して利用者の状況を家族に伝え、意見や要望が出しやすいようにも取り組んでいる。活用はされていないが、意見箱も設置している。運営推進会議での家族の意見・提案も大切にしている。聴取した意見や要望は全体会議で職員全体で共有し、記録に残し、運営やサービスに活かしていくように努めている。外出を多くしてほしいという家族共通の要望に基づいて外出の機会を増やし、寄り添い介護として企画し寄り添い介護報告書にまとめている。</p>	
<p>11 7</p>	<p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>毎月に各ユニット毎の会議、またグループホーム合同の会議を開催し意見や要望を聞き入れたり、日々の業務の機会でも意見を聞き反映している。</p>	<p>全体会議・ユニット会議・カンファレンスを毎月行い、業務の見直しやケア方針などについて意見や提案を出し合い、話し合っている。日常的にも管理者が職員から意見や提案などを表出しやすい雰囲気作りに配慮し、個別にも相談に乗っている。定期的に法人統括と管理者が面談を行う機会にも、職員の希望や要望・提案を聴取するようにしている。利用者との馴染みの関係を大切に考え、職員の異動は極力行なわない方針である。</p>	

12	<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>現場の仕事に常に目を向け、指導や相談にのり評価される人事考課表を実施し、モチベーションの向上に努めている。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>年間の職員研修、階層別の研修を計画的に実施したり、管理者も研修</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>交流会を通じて他の事業者との交流し、研修会にも参加したり、交流会に出向いたり活動している。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>初回面接から本人、家族様から相談内容や不安をお聞きして解決に努めて、スムーズな入所を心がけている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>初回面接時に情報聞き取りに加え、書面での情報収集も家族にお願いしている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人、家族と十分な面接を行い、適切なサービスについて助言してアドバイスをしている。</p>		
	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p>			

18	職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることは行っていただくということを第一に考え、出来ないことを援助させていただくことで、共同での生活の作業を行っています。		
19	○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や、定期的に電話することにより入居者の方の状態をお伝えすることをさせていただき、家族様にも協力いただいています。		
20	8 ○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの場所の情報収集もしっかりし、入居者・家族側からのご要望にあわせ外出援助を行っています。去年からは、個別ケアに重点をおき、馴染みのあるところへ職員と1対1で行き、支援しています。	入居時のアセスメント・入居後の日々のコミュニケーション・家族・知人からの聞き取りなどから、馴染みの人・場所についての情報を収集している。その情報を基に、寄り添い介護の企画の中で、自宅に帰ったり、懐かしい場所や店に出かけられるように支援している。友人・知人の来訪もあり、気持ちよく面会できるように配慮し、関係が継続できるように努めている。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者が、孤立されている場合は、職員が間に入りコミュニケーションをとることを心がけ、相入居者様本位のケアを心がけています。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移られても、年賀状などを送らせて頂いたり相手側からも送って来られたりホームに来られ相談等様子をお伺したりと関係を継続している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				

23	9	<p>○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者様の会話の中や行動・日々の様子等からニーズを導き、希望に添えるように努めている。</p>	<p>入居時のアセスメントで利用者・家族の思いや意向を聞きとり、初回の介護計画に反映させている。入居後は、日々のコミュニケーションやかかわりの中から把握した思いや意向をカンファレンスなどで話し合い、介護計画や寄り添い介護企画や日々のケアの中で実現できるように取り組んでいる。意思の疎通が困難な方については、日々の関わりの中での表情や反応から汲み取ったり、家族の意見を参考にするなど、本人の立場に立って話し合い支援している。</p>	
24		<p>○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める</p>	<p>入居前のアセスメントに引き続き、ケアマネ、家族様の協力の下、生活歴の把握に努めている。</p>	/	/
25		<p>○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>職員が入居者様との会話や生活スタイルを観察した中から、個々に合わせたケアに努めている。</p>	/	/
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>面会時やお便り、電話で本人のニーズ、家族様の思いを聞きのぞみを取り入れ反映している。</p>	<p>介護計画は、利用者・家族と面談を行いフェースシートの書式に従って得られた基本情報を基に、利用者の状態を把握し、利用者・家族の希望・要望・職員の気づきを活かして作成している。作成後は、介護サービス計画の援助項目の優先順位に応じてモニタリングチェック表に明示し、職員が日々チェックし実施状況を把握し、全職員が計画を日々意識してケアの提供を行い、利用者の状態の変化や計画の見直しの必要性を早期に把握できるような仕組みがある。定期的には3～6ヶ月の見直しを行い、利用者の状況や意向に変化がある時は随時見直しを行い、現状に即した計画に基づいたケアの実践に努めている。</p>	
		<p>○個別の記録と実践への反映</p>		/	/

27	<p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>利用者様状態等介護日誌を記録し、心身の状態の変化や気づきの点を申し送り欄に記入や口頭でも伝え職員間で情報の共有をしやすいように、毎日モニタリングに活用している。</p>		
28	<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>生活歴、フェースシート家族等から参考や管理者からアドバイスし、個人個人にあった生活を提供させていただけるよう取り組んでいます。</p>		
29	<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>自己決定を尊重し、スーパーへの買い物、近隣の昔から行きつけの店への息抜きや思い出の場所など、地域の資源を利用させていただいています。</p>		
30	<p>11 ○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>ホームの協力医療機関はあるが、希望があれば入居前の主治医の継続は可能である。週1～2回の割合で往診を受け、緊急時は24時間対応できる体制を確保している。</p>	<p>協力医療機関はあるが、利用者や家族が希望する医療を受けられるように支援している。近隣の内科医師と看護師の往診が週に2回あり、必要時には訪問看護の訪問も受けられる。皮膚科・眼科などへの通院には職員が同行する。主治医が紹介状を書き、同行した職員が口頭で状態を説明し、受診結果は職員から報告を受け、家族にも報告している。定期的な健康診断も協力医療機関が行なっている。</p>	
31	<p>○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>週2回の訪問看護をいただいている。また、日常の体調の変化など気付いた事を常に看護師電話で報告して指示仰ぎ。訪問時にも指示を受けている。</p>		
	<p>○入退院時の医療機関との協働</p>			

32	<p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院された際は週1回の割合で面会を行い、医療機関より情報を提供していただきフロアで共有している。退院直前には予め職員会議で協議し円滑に進むように対応している。</p>		
33	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>今年に入り重度化された入居者様がおり随時、家族様、看護師、医者との連携をとり、情報の共有化を徹底に努めている。</p>	<p>協力医療機関・訪問看護の協力もあり、希望があればホーム内で看取りを行う方針である。事業所の看取りに対する方針については、契約時に家族に説明を行い同意書を書面で交わしている。主治医が終末期と判断した時点で家族の意向を再度確認し、利用者の状態・段階に応じて家族と話し合いを行ったり、家族・主治医・職員が方針を統一して支援している。</p>	
34	<p>○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>応急時の対応マニュアルを作成して管理者から指導している。</p>		
35	<p>○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回消防訓練を実施と自治会に協力体制をお願いしている</p>	<p>年2回の消防訓練を昼夜想定で行い、1回は消防署立ち会いの下利用者参加で夜間想定で行った。地域の避難の場所になるなど、自治会との協力体制を構築している。</p>	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>言葉掛けや対応に関し、管理者が見本となり、職員にもその都度指導したり、認知症、接遇について内部研修でも取り上げて実践に努めている。</p>	<p>基本理念にも利用者の尊厳について謳われており、理念の振り返りの際にも再確認している。年間の研修計画に基づいて行なわれる「認知症」・「接遇」などの研修の中で、尊厳やプライバシー保護について学ぶ機会を確保している。「排泄時は夜間でも扉は閉める。」「居室への入室時はノックする。」「バルーンは外から見えないように工夫する。」など、日常の具体的な事例を自分に置き換えて考えて話し合い、理解と浸透を図っている。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>利用者様の行動・言葉に常に気を配り理解しやすいように説明を行った上で、意思や希望が出やすいように職員が声掛けや環境作りに努めている。</p>	/	/
38		<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一人一人の生活スタイルに合わせて、日々工夫して援助に努めている</p>	/	/
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>日常着は自己にて決定して頂きその日の雰囲気やその人にあつたオシャレの援助をさせていただきます。</p>	/	/
		<p>○食事を楽しむことのできる支援</p>			

40	15	<p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食材のカットや盛り付け、片付けを職員と一緒にやっている。火曜日の夕食は自由作成日として入居者様のご要望に応じて職員と共同で買い物に行き、ホームで食事作りをしている。</p>	<p>管理栄養士が作成した献立と食材が搬入され、利用者にも参加していただき、調理・後片付けをおこなっている。週に2回は利用者の要望を取り入れた献立を立て、買い物から一緒に行っている。温かい物は温かく冷たいものは冷たくなど、美味しく食べていただけるように細やかに配慮している。職員も利用者と共に同じテーブルで会話を楽しみながら食事し、家庭的な食事の雰囲気大切にしている。利用者の嚥下や咀嚼に応じた形態での食事提供を行っている。また、全員での外食行事・個別での外食支援・弁当を持って花見に行く等、食事を楽しむための様々な工夫がなされている。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている</p>	<p>傷病には留意して、食事の量、栄養面、水分摂取量を個々に考え援助させていただいています。</p>	/	/
42		<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後口腔ケアの声掛けを行い、見守りや介助し口腔内の清潔保持に取り組んでいる。</p>	/	/
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>日中・夜間通してトイレでの排泄を心がけて生活に近いレベルで対応を行い、ADLが低下しなようにも生活リハビリにも努めている。</p>	<p>日中・夜間ともにトイレでの排泄を基本としているが、利用者の状況や意向に応じて夜間おむつを使用する場合もある。排泄チェック表で一人ひとりの排泄パターンを把握し、羞恥心に配慮しながら、その方に応じた声かけ誘導を行い、自立の方にはさりげなく排泄状況を確認している。トイレは掃除を徹底し、常に清潔な環境を確保するように努めている。</p>	
		<p>○便秘の予防と対応</p>		/	/

44	<p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>日常の食事で食物繊維、水分摂取、乳製品等の食物で自然な形で排泄を促す取り組み看護師共に連携している。</p>		
45	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>入浴時間、曜日は設定せず、入居者様の声を第一聞き、その人の生活スタイルに応じる形を取っている。</p>	<p>時間帯も回数も本人の生活習慣と希望に合わせて、気持ちよく入浴できるように支援している。夜間入浴も20時30分まで可能である。希望があれば同性介助を行っている。入浴拒否がある利用者についても、無理強いせず、職員や時間帯や日を変えて対応している。利用者のADLの低下により一人介助での入浴が困難な利用者には、安全性を考え二人介助で支援している。</p>	
46	<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>1人1人にあつた生活スタイルに合わせて入居者様基準で、起床・臥床を提供している</p>		
47	<p>○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>使用している薬の内容の把握はもちろん、変更に関しても介護日誌・口頭でも申し送り職員全体が把握できるように服薬手帳にも記入している</p>		
48	<p>○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>生活歴や趣向をベースにした生活スタイルを提供している。当ホームでは喫煙、飲酒も認め利用者本位に努めている。</p>		
	<p>○日常的な外出支援</p>			

49	18	<p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>本人の希望、残存機能にあわせ、外出を積極的に行い、家族様にも協力頂いたりその都度希望に応じて対応している。</p>	<p>近隣の散歩、徒歩での買い物や車での買い物は、日常的に行なわれており、ちらしを見て買い物に出かけるような普通の生活感覚を大切にしている。季節ごとの外出や遠出の外出は、フロア毎に出かけたり、利用者の希望に応じて個別に出かけることができるように、臨機応変に支援している。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>自己管理が出来る方は、自己管理にて嗜好品を買いに行かれています。自己管理が出来ない方は、事務所で小口現金を預かり、希望にそって職員付き添い買い物に出かけて本氏の意思決定をしています。</p>	/	/
51		<p>○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>利用者様の希望に合わせて、かけて頂き、本人でも携帯電話を持っておられる方もおられます。</p>	/	/
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用空間は常に清潔に保ち、ベランダに花や植木を置き、リビングには四季感じる写真・貼り絵等を展示している。</p>	<p>木調の共用空間は、採光のよい明るくゆったりとした生活空間を提供している。手作り感・季節感を大切に考え、季節感のある手作りの装飾品・植物・写真などが飾られている。衛生面に特に留意し、清潔な環境整備に努めている。共用空間では、テレビに頼らない生活を心がけ、音量に配慮したり消す時間を設定している。所々にソファや椅子を配置し、思い思いの場所で寛げるように配慮されている。</p>	
		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p>	<p>リビング以外にも長椅</p>	/	/

53		<p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>子を設置し、気の合う方同士や一人でも過ごせるスペースを確保したり、四季応じて模様替えをしたりと工夫している。</p>	/	/
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人が自宅で使用していた愛着ある家具類、テレビ、仏壇等を入居時に持ち込んで頂き、心地の良い住環境を提供している。</p>	<p>入居時に利用者・家族の意向を聴取し、使い慣れた家具や道具などを持ち込んでその人らしい居室作りに努めている。一人ひとりの生活習慣や生活歴を尊重し、布団を使用されている方もいる。ADLの低下が見られたり危険がある場合には、模様替えや安全な家具の配置を提案し、カンファレンスで話し合い、家族の了解を得て家族立会いの下実施し、安全な環境整備に取り組んでいる。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>ホーム内には手すりを設置し、バリアフリー移動しやすい環境を整えている</p>	/	/

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない

65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない